

# 今冬の節電に向けた営農技術対策について

平成 25 年 11 月 6 日  
日高農業改良普及センター

冬の北海道における万が一の電力需給のひっ迫は、生命、安全を脅かす可能性があることから、高稼働が続く火力発電設備の計画外停止リスクを踏まえ、平成22年度比で6%以上の節電が要求されています。

農業分野においても、農作業、家畜の飼養管理の適切な実施を行い、農業生産や農畜産物・加工品など食品の品質の維持、安全・安心の確保に影響しない範囲で、次の事を参考に節電に努めましょう。

## = 節電要請期間と時間 (ほくでんHPより) =

平成 25 年 12 月 9 日(月)～26 年 3 月 7 日(金)の平日<sup>※1</sup>  
16 時～21 時において 6 %以上<sup>※2</sup>の節電にご協力をお願いします。

※1 平成 25 年 12 月 30 日(月)～26 年 1 月 3 日(金)を除く

※2 平成 22 年度の実績との比較

- ・上記の期間・時間帯を除く平成 25 年 12 月 2 日(月)～26 年 3 月 31 日(月)の平日 8 時～21 時においても、数値目標は設けられておりませんが、無理のない節電にご協力をお願いします。
- ・冬季の北海道は夜間も電力需要が高い水準にあるため、平日 8 時～21 時以外の時間帯についても、可能な範囲での節電をお願いします。

## 1 共通事項

- (1) 長時間使用しない農業機械等の電源は切っておく。また、使用していないプラグはコンセントからこまめに抜く。
- (2) 電力を消費する不連続な作業は、可能な限り電力消費量の少ない土曜日や日曜日に行う。
- (3) 電気を使用する農業用機械・設備は、定期的に清掃し、運転効率を高める。
- (4) 換気設備等は、可能であればインバーター制御や送風効率の高いものに変更する。
- (5) 施設内の照明器具は、可能であれば LED 式や高効率蛍光灯などの省エネタイプに交換する。
- (6) 貯蔵施設では、必要最小限の使用電力に留めるため、貯蔵品目に合わせた目標温度に設定し、必要に応じて断熱補強を行い保冷性を高める。

## 2 園芸

### (1) 施設(栽培・育苗用共通)

以下の管理を行い、温風式・温湯式暖房機や換気扇、自動カーテン等の稼働時間短縮に努める。

ア 施設周辺はこまめに除雪して採光性を高め、すき間や破れ等がある場合は修復を

行う。

イ 出入口は、内張りカーテンを2重3重に張り合わせ、出入りによる寒風の流入を防ぐ。

ウ 温風式・温湯式暖房機は、サーモセンサーを点検するとともにノズル周辺の清掃やバーナーのエアシャッター（燃焼空気取入口）を調整して燃焼効率を高める。

エ 多段式サーモ装置を活用し、作物の生育に合わせて時間帯により設定温度を変えて管理することが望ましい。特に夜間は、呼吸消費を抑制するうえでも各品目の生育最低温度で極力管理する（ただし、出荷時期の遅れに支障がない程度に留意する）。

オ 養液栽培施設では、養液供給時間や回数を調節し、稼働時間短縮に努める。

カ 温湯式暖房機・電熱線を使用して育苗する場合は、断熱材等を敷いてから温湯パイプや電熱線を設置して保温効果を高めるとともに、サーモセンサーの設定温度にずれがないかを確認する。

## (2) 出荷・調製作業

ア 出荷・調製施設では、送配電に係る装備の保守点検を十分行う。

イ 出荷・調製作業は、できるだけ明るい時間に終了できるように収穫時間帯を調整する。

ウ 出荷・調製作業施設の照明は最小限にとどめ、採光性の改善や窓の近くなど明るい場所で作業を行う。

エ 出荷調製作業施設の隙間を塞ぎ、保温性を高める。

## 3 酪農・畜産

### (1) 最大使用電力量の抑制

搾乳機器とバルククーラー、ふん尿処理設備、暖房機器、換気設備などの定格電力を把握したうえで、稼働させる機器の時間帯を分散させ最大使用電力量を抑制する。

特に電力消費の多い搾乳作業（搾乳機器、バルククーラー）は、可能な限り電力を必要とする他の作業と重複しないように工夫する。

ただし、生乳生産や衛生管理、換気などに支障をきたさない範囲で取り組むように留意する。

### (2) バルククーラーの冷却効率の向上

ア 冷凍機の周辺には物を置かず、風の通りを良くする。また、機械本体に日射が当たらないように注意する。

イ 冷凍機のフィン（放熱板）に詰まった埃やゴミは、エアブラシなどできれいに取り除く。この際、高圧洗浄機の使用は装置を痛めるので避ける。

### (3) 幼畜等の防寒対策

ア 幼畜舎は、換気を確保しながらもすきま風を防ぐよう開口部を調節したり、幼畜が直接寒風を受けない場所へ自由に行き来できるようにするなど保温対策に努める。なお、呼吸器病や下痢症の発生を抑制するためにも飼養密度を適正にする。

また、敷き料を十分に確保し、必要に応じて防寒ジャケットを着せたり、湯たんぽや寝床へ断熱材を利用するなど低温による体力消費を防ぐ。

イ 保温マット、赤外線ランプなどは、周辺温度に応じた温度調節を行う。